

あやめ池学園南

あやめ池学園南九条の会

9 条の会

本年もよろしく願いいたします!

発行者 吉川好胤 あやめ池南1-3-32

新テロ特措法を廃案に

テロ特措法の期限が切れ、インド洋で米艦船などに給油していた自衛艦が帰国しました。これを再開したい自民・公明両党は、国会を再延長し、衆院で3分の2以上の賛成多数で新テロ特措法案の再議決を強行しようとしています。こんな横暴は許せません。アメリカの戦争を支援する法案は、廃案にすべきではないでしょうか。

■報復戦争への参戦協力

01年9月の同時多発テロにたいし、アメリカはアフガニスタンへの報復戦争をはじめました。

この結果、何万人もの一般市民が殺され、傷つき、アフガン国土も荒廃がすすんでいます。この報復戦争の一部は海上阻止作戦で給油を担当していたのが、自衛艦です。イラク攻撃にも使われていました。自衛隊の給油した油が人々を殺傷する作戦

に使われていたのです。

■テロは戦争ではなくせない

この6年間の一番切な教訓は、「テロは戦争ではなくせない」ということです。逆に、テロと報復の悪循環がすすみ、テロも世界各地に広がりました。いまアフガンでは、カルザイ大統領も含め「和解と平和」を話し合い解決への努力が始まっています。米軍への戦

争支援は、この努力にも逆行するものです。

■くらしも直撃

テロ特措法で自衛隊が米艦船などに無料給油するのにつかった金は600億円。別に毎年600

0億円も米軍に提供しています。さらに米軍基地再編に6兆円。ここにも利権が渦巻いています。

「防衛省は油を出すよりまずウミを出せ」というのが国民の声ではないでしょうか。

加藤 周一 (九条の会)

「九条の会」では、「9条を守る」ということもあるし、「9条を生かす」という場合もあります。この二つは違うわけではなく、「守る」というのは明文改憲に反対「生かす」は解釈を変え憲法の精神を否定することに反対することです。解釈しだいでインド洋での給油もイラクへの上陸もできてしま

う。「九条の会」の運動は「守る」から出発しましたが、「生かす」ことも重視する必要があります。それは、安倍内閣から福田内閣に代わって、憲法についても手の込んだ理屈で、扱い方もより慎重になり、状況判断はより現実的に細かく行うよ

うに変化してきています。福田内閣ははるかに手ごわい相手です。ですから私たちの運動も、「守る」ことはもちろんだが、「生かす」ことも念頭に置く必要がある。二つのことを提起したい。一つは、運動が長丁場になることを意識すること。組織が劇的に大きくなることより、ゆつくりと大きくなることを意識して進む必要がある。

もう一つは、改憲勢力は福祉反対、戦争を容認などを連関させて政策をすすめている。こちらの側も日常生活のあらゆる問題と結びつけていく必要がある。(第2回全国交流集会の挨拶から)

呼びかけ人賛同人の皆様へ

あやめ池学園南九条の会は、12月15日第24回代表世話人会議を開催し、情勢と今後のとりくみについて討議しました。

行動の1つに、憲法九条を守ろうとの署名のとりくみをひきつづき強化することを決定。

その2に、地域へのビラ配布(N07 1月9

日号)を一斉に行うことにしています。

その3に、地域での憲法九条を守ろうとの声をいっそう励ますためにも「九条の会」ポスター掲示の推進とともに憲法ス

テッカーの普及に取り組みようということになりました。大きなポスターはどうもといわれる方でもぜひ(左図のとおり)の小さなステッカー(26×6cm)の掲示にご協力ください。

